

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年8月7日
【四半期会計期間】	第50期第1四半期（自平成27年4月1日至平成27年6月30日）
【会社名】	株式会社東葛ホールディングス
【英訳名】	TOKATSU HOLDINGS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 石塚 俊之
【本店の所在の場所】	千葉県松戸市小金きよしヶ丘三丁目21番地の1
【電話番号】	047-346-1190（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 吉井 徹
【最寄りの連絡場所】	千葉県松戸市小金きよしヶ丘三丁目21番地の1
【電話番号】	047-346-1190（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 吉井 徹
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第49期 第1四半期連結 累計期間	第50期 第1四半期連結 累計期間	第49期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (千円)	1,728,198	1,566,600	7,312,147
経常利益 (千円)	106,709	86,484	462,293
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	64,591	54,703	282,508
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	64,591	54,703	282,508
純資産額 (千円)	3,098,566	3,326,835	3,320,415
総資産額 (千円)	7,031,196	6,566,340	6,921,357
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	13.37	11.32	58.50
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	13.15	11.09	57.35
自己資本比率 (%)	43.9	50.4	47.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	206,213	77,425	708,730
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,669	2,290	47,100
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	53,512	174,088	470,854
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	970,964	1,169,573	1,418,796

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

4. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、当第1四半期連結累計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」としております。

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成27年4月1日～平成27年6月30日）におけるわが国の経済環境は、企業収益、雇用環境等が改善の動きを続けている反面、個人消費の改善の動きが一服している等全体では横ばいの状況で推移しております。

このような環境のなか、当社グループにおいて中核事業である自動車販売関連事業が属する自動車販売業界では、エコカー減税の対象車種及び減税率の基準見直し、軽自動車税の増税等による販売環境の悪化により当第1四半期連結累計期間の国内新車販売台数は1,097,754台（登録車（普通自動車）・届出車（軽自動車）の合計。前年同四半期比5.5%減）となりました。

車種別では、ハイブリッド車（フィットハイブリッド、アクア等）、軽自動車（N-BOX、タント等）、コンパクトカー（フィット、ノート等）が販売の上位を占めております。

当社グループにおけるセグメント毎の状況につきましては以下のとおりであります。

新車販売につきましては、エコカー減税の対象車種及び減税率の基準見直しや軽自動車税の増税等による販売環境の悪化に加え、相次いだリコールの影響による主力車種の販売減少等により販売台数は418台（前年同四半期比20.8%減）となりました。また、販売台数の減少に伴い登録受取手数料等の手数料収入及び整備業務を行うサービス売上も前年同四半期に比べて減少しました。売上高は12億21百万円（前年同四半期比12.6%減）となりました。

中古車販売につきましては、新車販売の不振による下取車の減少をオークション等による外部仕入を増やすことで販売車両の確保に注力した結果、販売台数は521台（前年同四半期比6.3%増。内訳：小売台数254台（前年同四半期比11.4%増）、卸売台数267台（前年同四半期比1.9%増））となりました。また、サービス売上及び販売台数の増加により登録受取手数料等の手数料収入も前年同四半期に比べて増加しました。売上高は3億22百万円（前年同四半期比5.0%増）となりました。

その他につきましては、生命保険・損害保険代理店業関連事業において、保険契約件数及び保険取扱手数料がともに減少したこと等により売上高は22百万円（前年同四半期比5.4%減）となりました。

以上の結果、当社グループの売上高は15億66百万円（前年同四半期比9.4%減）となりました。

また、損益につきましては、営業利益は86百万円（前年同四半期比20.4%減）、経常利益は86百万円（前年同四半期比19.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は54百万円（前年同四半期比15.3%減）となりました。これは、当社グループ全体の売上高に占める割合が大きい新車販売の売上高が前年同四半期に比べて減少したこと等によるものです。

(2)キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ2億49百万円減少し、当四半期連結会計期間末には11億69百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結累計期間において営業活動の結果使用した資金は77百万円（前年同四半期は2億6百万円の使用）となりました。これは税金等調整前四半期純利益86百万円から主に減価償却費31百万円、賞与引当金の増加額22百万円、売上債権の減少額1億36百万円、たな卸資産の増加額11百万円、仕入債務の減少額1億95百万円、その他の資産の増加額40百万円、その他の負債の減少額25百万円及び法人税等の支払額80百万円等を調整したものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間において投資活動の結果獲得した資金は2百万円(前年同四半期は2百万円の獲得)となりました。これは主に貸付金の回収による収入2百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は1億74百万円(前年同四半期は53百万円の使用)となりました。これは借入金の返済による支出1億25百万円、配当金の支払による支出48百万円によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,920,000
計	16,920,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年6月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成27年8月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,830,000	4,830,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	4,830,000	4,830,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成27年4月1日～ 平成27年6月30日	-	4,830,000	-	210,300	-	199,711

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成27年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成27年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,825,000	4,825	単元株式数 1,000株
単元未満株式	普通株式 4,000	-	-
発行済株式総数	4,830,000	-	-
総株主の議決権	-	4,825	-

(注)「単元未満株式」の欄には、自己株式701株が含まれております。

【自己株式等】

平成27年6月30日現在

所有者の氏名 または名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
株式会社東葛ホール ディングス	千葉県松戸市小金き よしヶ丘三丁目21番 地の1	1,000	-	1,000	0.03
計	-	1,000	-	1,000	0.03

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人A & Aパートナーズによる四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり交代しております。

第49期連結会計年度 野海公認会計士事務所、楠見公認会計士事務所

第50期第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間 監査法人A & Aパートナーズ

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,418,796	1,169,573
受取手形及び売掛金	2,100,562	1,972,957
商品及び製品	379,853	336,964
その他	129,536	172,713
流動資産合計	4,028,748	3,652,209
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	470,143	461,384
機械装置及び運搬具(純額)	193,469	226,607
土地	1,985,328	1,985,328
その他(純額)	3,360	3,267
有形固定資産合計	2,652,301	2,676,587
無形固定資産	980	878
投資その他の資産	239,327	236,664
固定資産合計	2,892,609	2,914,131
資産合計	6,921,357	6,566,340
負債の部		
流動負債		
買掛金	528,393	332,511
短期借入金	2,127,015	2,017,321
1年内返済予定の長期借入金	53,614	50,004
未払法人税等	80,607	33,414
賞与引当金	48,889	71,866
その他	337,331	321,094
流動負債合計	3,175,851	2,826,212
固定負債		
長期借入金	179,157	166,656
その他	245,933	246,636
固定負債合計	425,090	413,292
負債合計	3,600,942	3,239,504
純資産の部		
株主資本		
資本金	210,300	210,300
資本剰余金	199,711	199,711
利益剰余金	2,896,623	2,903,043
自己株式	673	673
株主資本合計	3,305,961	3,312,381
新株予約権	14,454	14,454
純資産合計	3,320,415	3,326,835
負債純資産合計	6,921,357	6,566,340

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	1,728,198	1,566,600
売上原価	1,318,645	1,162,299
売上総利益	409,553	404,300
販売費及び一般管理費	300,841	317,730
営業利益	108,712	86,570
営業外収益		
受取利息	444	404
受取手数料	988	1,908
受取保険金	-	790
その他	1,418	702
営業外収益合計	2,852	3,806
営業外費用		
支払利息	4,854	3,893
営業外費用合計	4,854	3,893
経常利益	106,709	86,484
特別損失		
固定資産処分損	-	10
特別損失合計	-	10
税金等調整前四半期純利益	106,709	86,473
法人税等	42,118	31,770
四半期純利益	64,591	54,703
親会社株主に帰属する四半期純利益	64,591	54,703

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純利益	64,591	54,703
四半期包括利益	64,591	54,703
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	64,591	54,703
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	106,709	86,473
減価償却費	27,226	31,044
賞与引当金の増減額(は減少)	22,105	22,976
受取利息及び受取配当金	444	404
支払利息	4,854	3,893
固定資産処分損益(は益)	-	10
売上債権の増減額(は増加)	20,754	136,682
たな卸資産の増減額(は増加)	248,819	11,777
仕入債務の増減額(は減少)	2,871	195,882
その他の資産の増減額(は増加)	50,015	40,367
その他の負債の増減額(は減少)	22,068	25,536
小計	78,305	7,112
利息及び配当金の受取額	11	11
利息の支払額	4,875	3,941
法人税等の支払額	123,042	80,607
営業活動によるキャッシュ・フロー	206,213	77,425
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	-	269
貸付金の回収による収入	2,682	2,682
差入保証金の差入による支出	12	121
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,669	2,290
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	10,850	109,694
長期借入金の返済による支出	16,071	16,111
配当金の支払額	48,292	48,282
財務活動によるキャッシュ・フロー	53,512	174,088
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	257,056	249,222
現金及び現金同等物の期首残高	1,228,020	1,418,796
現金及び現金同等物の四半期末残高	970,964	1,169,573

【注記事項】

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上する方法に変更するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(4)、連結会計基準第44 - 5項(4)及び事業分離等会計基準第57 - 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

割賦販売によって顧客に販売した自動車にかかる割賦債権については、株式会社オリエントコーポレーションに集金業務を委託するとともに、同社による支払保証を受けております。なお、当該割賦債権の代金回収予定額の約束手形を同社から受領しております。当該受取手形金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
受取手形及び売掛金	1,947,015千円	1,837,321千円

また、株式会社オリエントコーポレーションが顧客に対して有する求償権に対し、顧客のために、当社は支払いを再保証しています。当該再保証額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
求償権に対する再保証額	207,237千円	203,961千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
現金及び預金勘定	970,964千円	1,169,573千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	970,964	1,169,573

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	48,292	10	平成26年3月31日	平成26年6月26日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	48,282	10	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	新車販売	中古車販売	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,396,670	307,466	1,704,137	24,061	1,728,198
セグメント間の内部売上高又は 振替高	104,427	-	104,427	-	104,427
計	1,501,098	307,466	1,808,564	24,061	1,832,626
セグメント利益	106,665	35,442	142,107	3,247	145,355

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、生命保険・損害保険代理店業関連事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	142,107
「その他」の区分の利益	3,247
全社費用(注)	36,643
四半期連結損益計算書の営業利益	108,712

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	新車販売	中古車販売	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,221,135	322,698	1,543,833	22,766	1,566,600
セグメント間の内部売上高又は振替高	65,922	-	65,922	50,579	116,501
計	1,287,058	322,698	1,609,756	73,346	1,683,102
セグメント利益	62,920	43,954	106,875	15,364	122,239

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、生命保険・損害保険代理店業関連事業及び钣金塗装事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	106,875
「その他」の区分の利益	15,364
全社費用(注)	35,668
四半期連結損益計算書の営業利益	86,570

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	13円37銭	11円32銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	64,591	54,703
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	64,591	54,703
普通株式の期中平均株式数(株)	4,829,200	4,828,299
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	13円15銭	11円09銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	81,084	101,389
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 8月 3日

株式会社東葛ホールディングス

取締役会 御中

監査法人 A & A パートナーズ

指定社員 公認会計士 齋藤 晃一 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 岡 賢治 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社東葛ホールディングスの平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社東葛ホールディングス及び連結子会社の平成27年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の平成27年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成26年8月4日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成27年6月13日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。